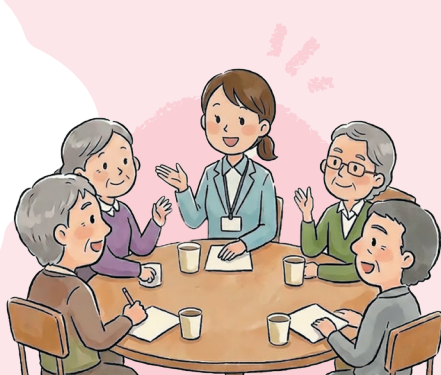


地域包括支援センター 無料出前講座

介護や福祉の学習の場として、ぜひご利用ください



地域包括支援センターとは

高齢者の皆さまとご家族、地域のための身近な総合相談窓口です。福祉課内にあり、介護や健康、暮らしのお困りごとに、電話・来所・訪問でお応えします。

老人会や自治会、ミニデイなど、地域の集まりに地域包括支援センターの職員が訪問し、介護や認知症、介護保険制度などについて分かりやすくお話しします。

ご希望に合わせてテーマを選べるほか、複数の講座を組み合わせることも可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。

講座メニュー

介護予防



- フレイル予防
- 栄養のはなし
- 地域の運動教室紹介

高齢者の権利を知る・守る



- 成年後見制度
- 高齢者虐待防止

介護保険制度



- 要介護認定などの手続き
- 在宅・施設サービスの利用方法

認知症について



- もの忘れチェック(のうKNOWほか)
- 認知症サポーター養成講座(理解と対応)

地域包括支援センターについて



- センターの役割
- 活動内容
- 地域資源の紹介
- 人生会議

主任ケアマネジャー・社会福祉士・保健師・看護師・理学療法士・栄養士が丁寧にお応えします。
「こんなこと聞きたい！」など、お気軽にご相談ください。



対 象 町内在住の5名以上のグループ
(自治会・老人会・サークルなど)

料 金 無料

時 間 30分～1時間程度
※人数や時間はご相談ください

申込方法 地域包括支援センターへご連絡ください
お住まいの行政区以外でも利用可能です

問 与那原町地域包括支援センター ☎945-1525

— 平和の日・慰霊の日企画展と関連事業を実施しました —



毎年6月、平和とは何かについて考えるために、生涯学習振興課・ジュニアリーダークラブが合同で、平和の日・慰霊の日企画展「戦世と今世—与那原の戦争と平和について考える—」と関連事業を実施し、町立図書館では「平和アニメ上映会」を開催しています。

企画展は、6月15日から28日まで、コミュニティーセンター2階集会室・ロビーにおいて、ジュニアリーダークラブは平和メッセージやガマを制作し、6月27日には、西銘志朔(与中1年生)・金城月奏(与中3年生)・花城咲菜(与中3年生)が、45名の参加者に戦争体験紙芝居を読み聞かせました。与那原の戦前・戦中・戦後の様子や歩みを伝えるパネル展には、与那原東幼稚園の園児と与那原小学校3・4年生の児童も見学にきていました。また、今回初めての試みで町内外の方に「平和を感じる瞬間の写真」を応募したところ、18名の応募がありました。次年度の企画展でも写真を募集する予定です。

6月20日にコミュニティーセンターで開催の「平和アニメ上映会」では、「ちいちゃんのかげおくり」が4回上映され、町内外の118名が参加しました。保護者や友人などと足を運んだ小学生たちは、真剣に見て「平和」について考えてくれたことが印象的でした。

7月4日には、企画展の関連事業として、町史編集係と文化財係が板良敷のトーチカと運玉森の平和学習広場を案内して、与那原町の戦争について解説しました。



ジュニアリーダークラブによる読み聞かせの様子



与那原東幼稚園の園児見学の風景



与那原小学校3年生の見学の様子



「平和アニメ上映会」の様子



町内戦争遺跡めぐり(左は運玉森、右は板良敷のトーチカ)

～平和を感じる瞬間の写真 応募作品より～

『ひいばあちゃんの習い事』

儀間明日香さん／大見武の祖母宅にて撮影



戦争を経験した祖母は、学生時代に十分な教育を受けることができませんでした。

ある日、学校の授業で三線を習い始めた娘が「弾けるようになったよ」と話すと、「私もやってみたい」と祖母が娘に向かってぼつり。

仏壇の前で、先に旅立った祖父に見守られながら、ひ孫が先生となって三線を教える時間が始まりました。

世代を超えて学び合い、笑い合える何気ない日常。その当たり前の幸せこそが、私にとっての平和です。